



テルモ株式会社

2008年3月期
決算説明会



2008年3月期 決算の概要と 新中期計画

代表取締役社長
高橋 晃



I. 決算概要

増収増益 & 2桁伸長を達成

(億円)

	07/3期	08/3期	増減率
売上高	2,764	3,064	11%
粗利益(率)	1,533 (55.5%)	1,682 (54.9%)	10%
販管費(率)	949 (34.3%)	1,013 (33.1%)	7%
営業利益(率)	585 (21.2%)	669 (21.8%)	15%
経常利益(率)	580 (21.0%)	642 (21.0%)	11%
当期純利益	372	434	17%

期中平均レート

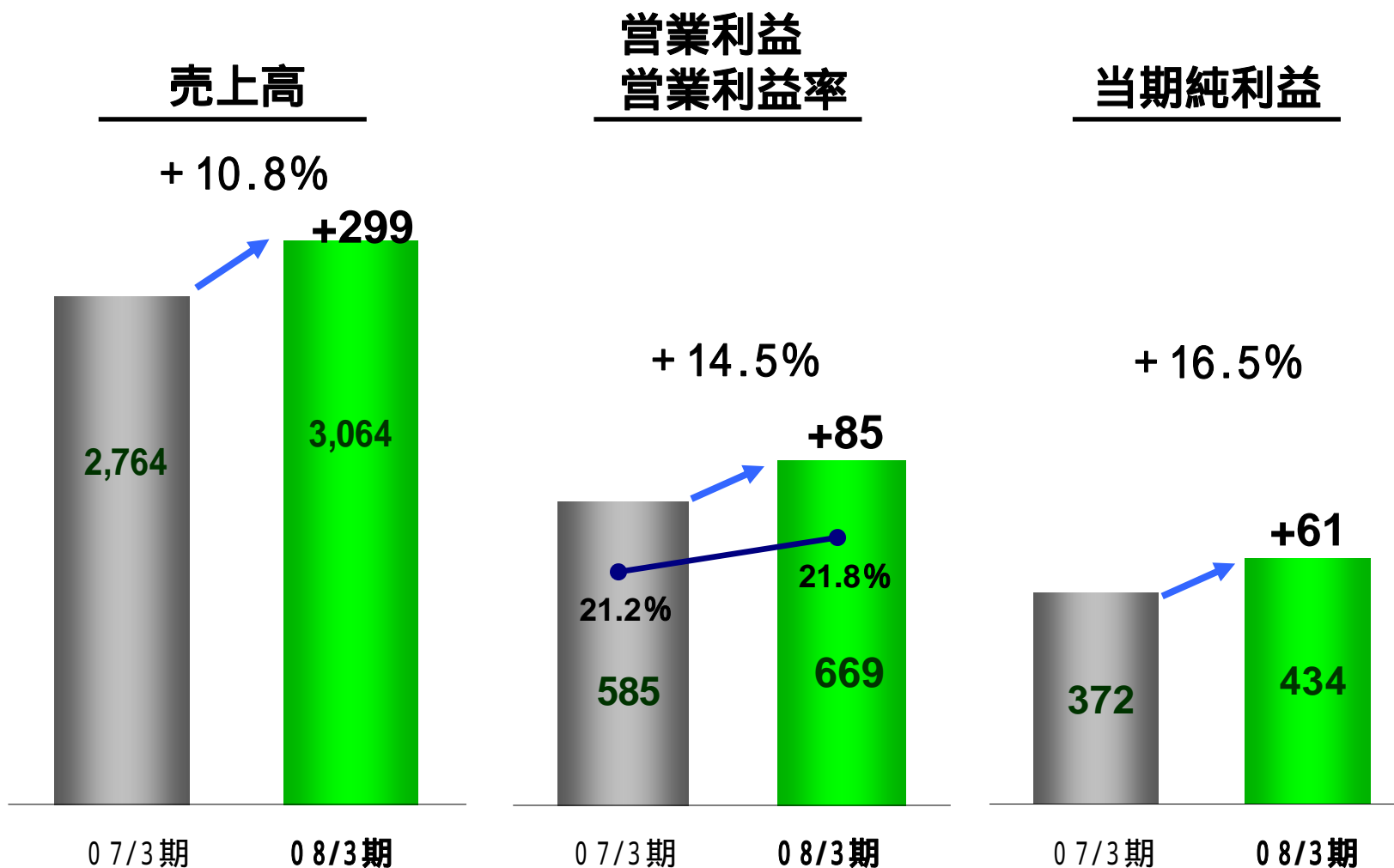
US \$ 117 円
EUR 150 円

114 円
162 円

2.2% 円高
7.7% 円安

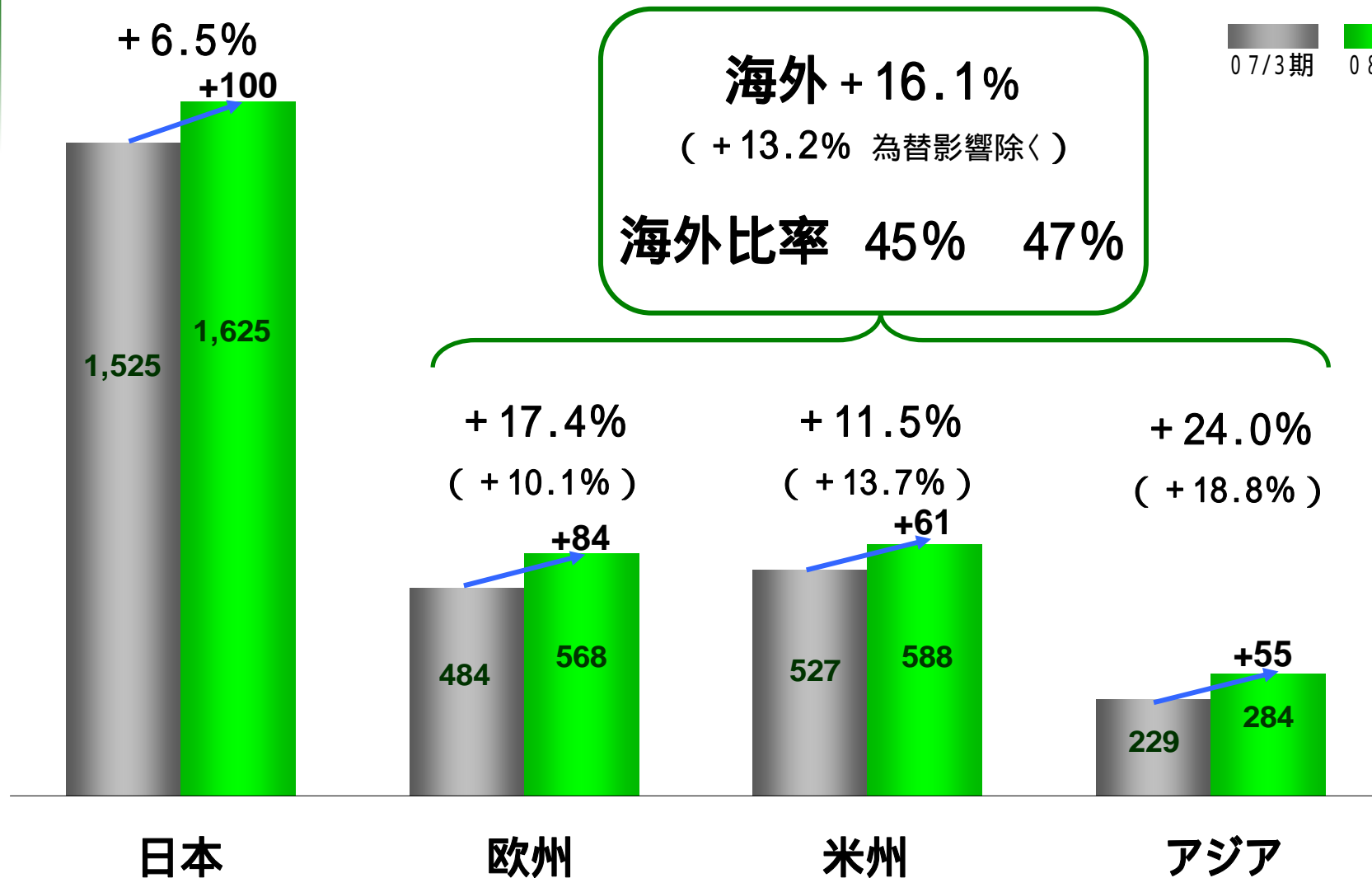
2008年3月期 財務状況

(億円)



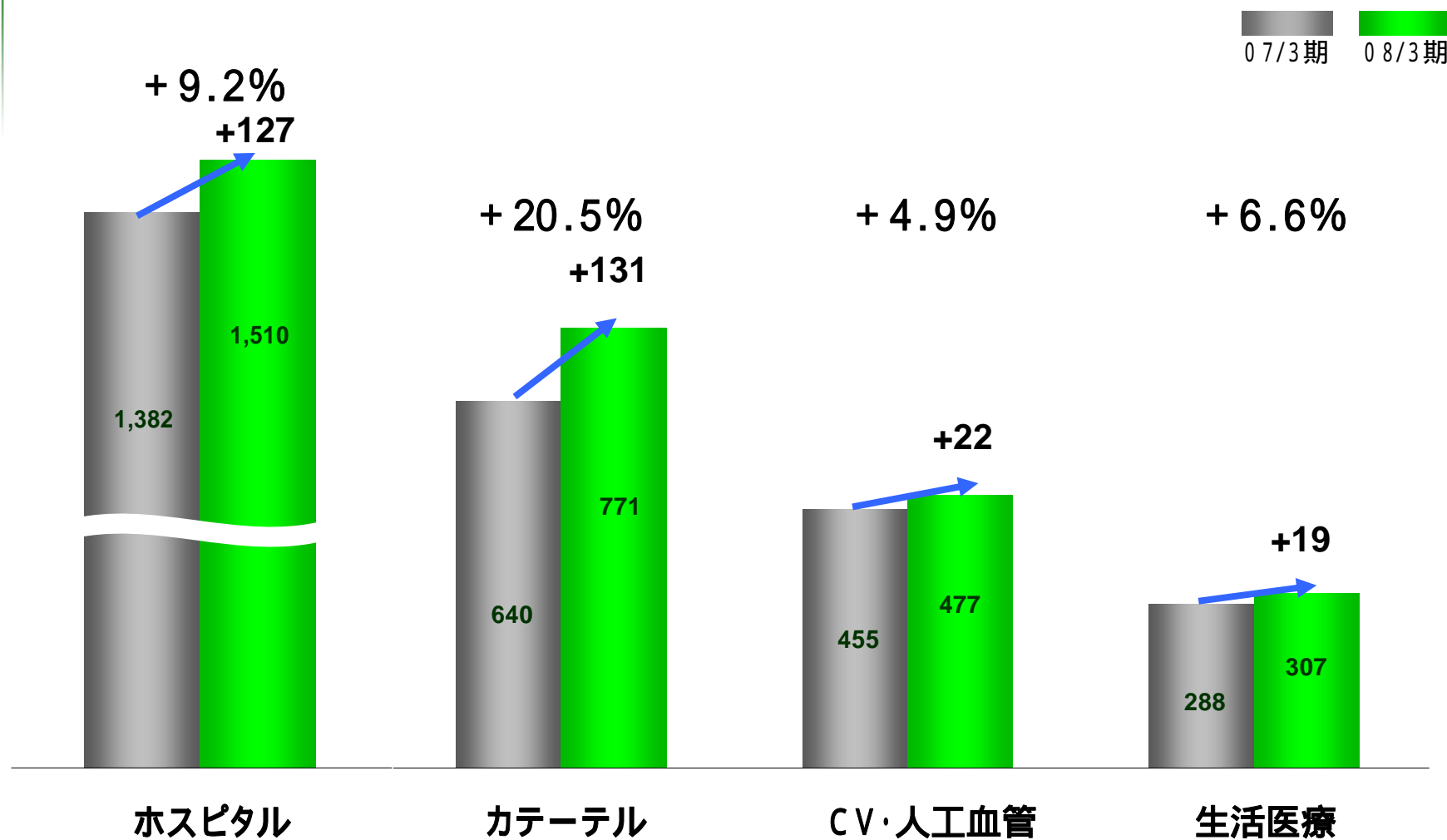
売上高 (エリア別)

(億円)



売上高 (商品群別)

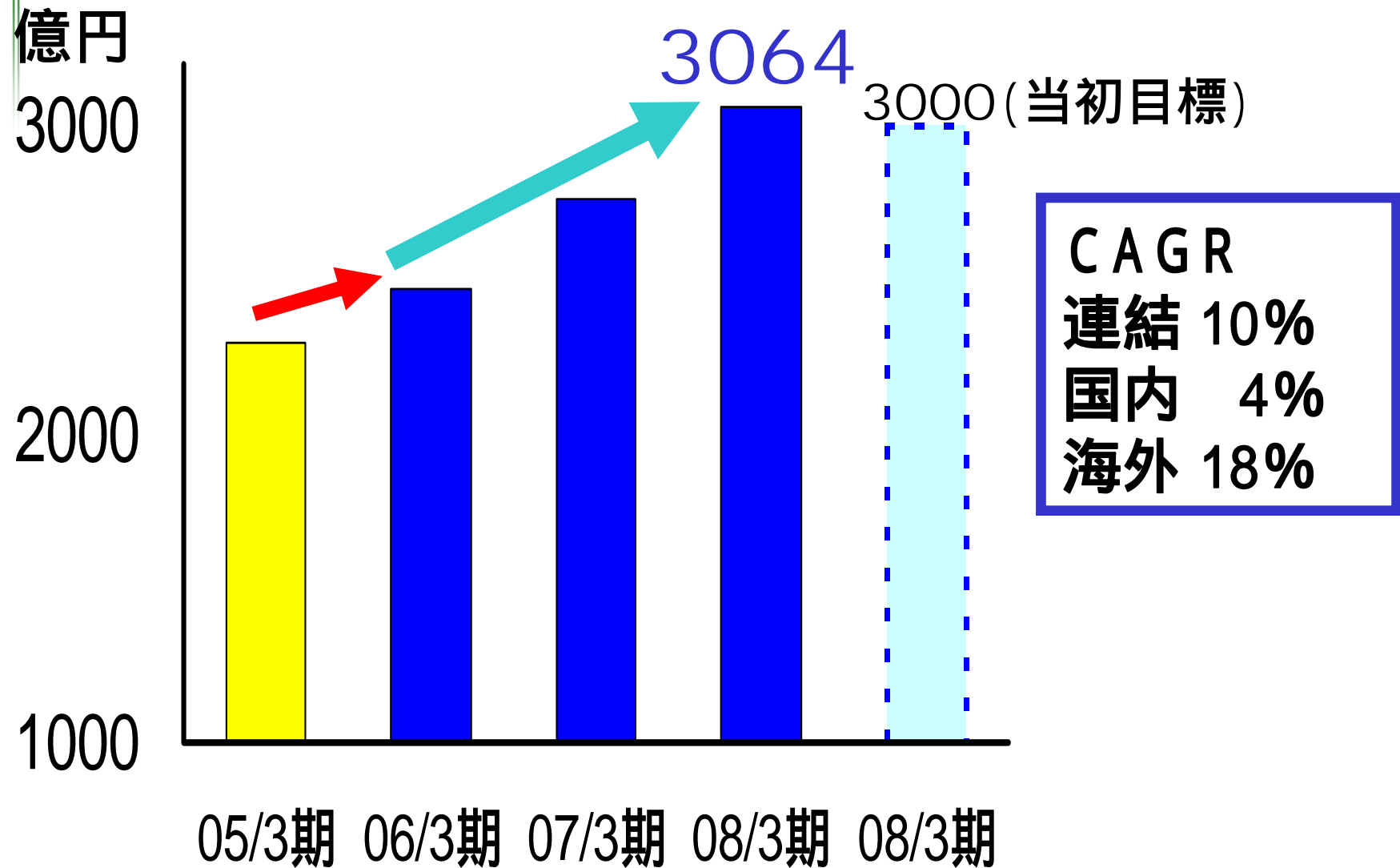
(億円)



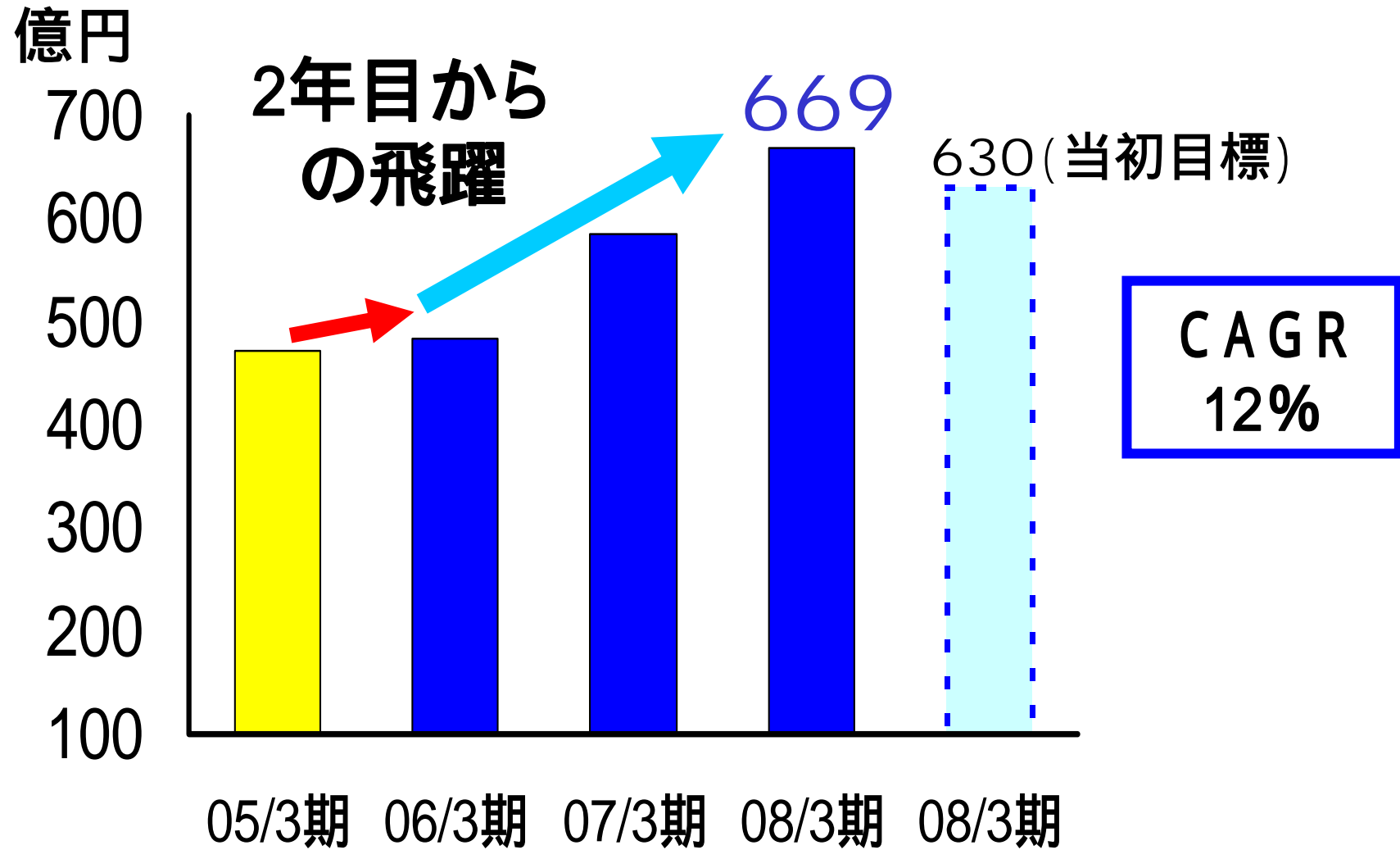
. STeP UPのレビュー



売上 2桁成長を達成



営業利益も2桁成長を達成



達成の要因(1) 国内安定成長を堅持

- ◆ 「リスクマネジメント」にフォーカスした事業展開
- ◆ メディカルプラネックスの戦略的活用



ソリューションパック



メディカルプラネックス



輸液ポンプ

達成の要因(2) 海外の事業展開力を強化

最先端の商品でプレゼンス向上

- ・「Nobori」「DuraHeart」など

地域戦略の促進

- ・米国カテーテル商品の自販化
- ・欧州B2Bビジネスの展開など



「Nobori」



「DuraHeart」

M & Aによる新技術獲得とシナジー

- ・英国バスクテック社との技術融合品を発売
- ・米国マイクロベンション社を買収



・ 新中期計画



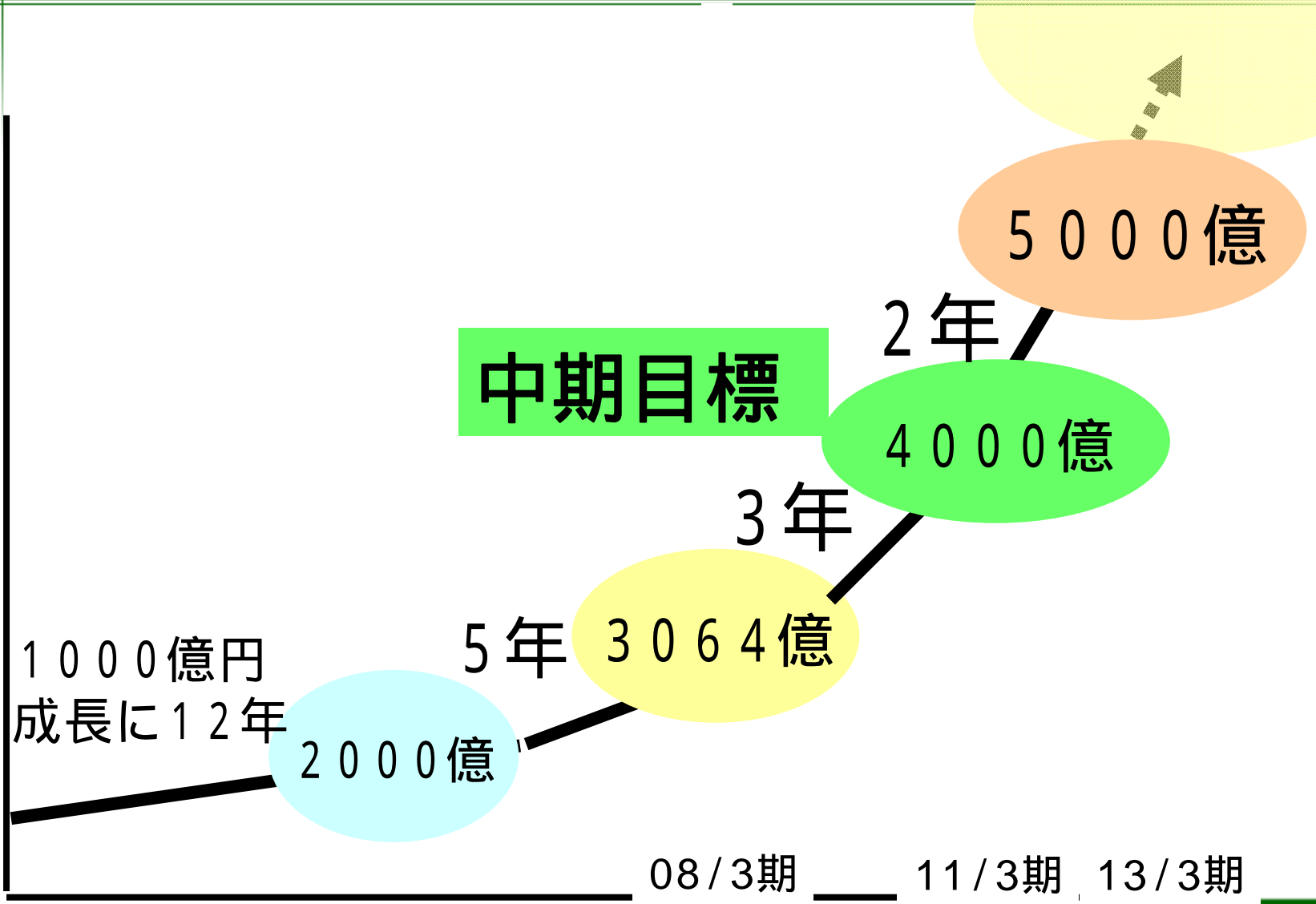
Phoenix 2010

「非連続への挑戦」

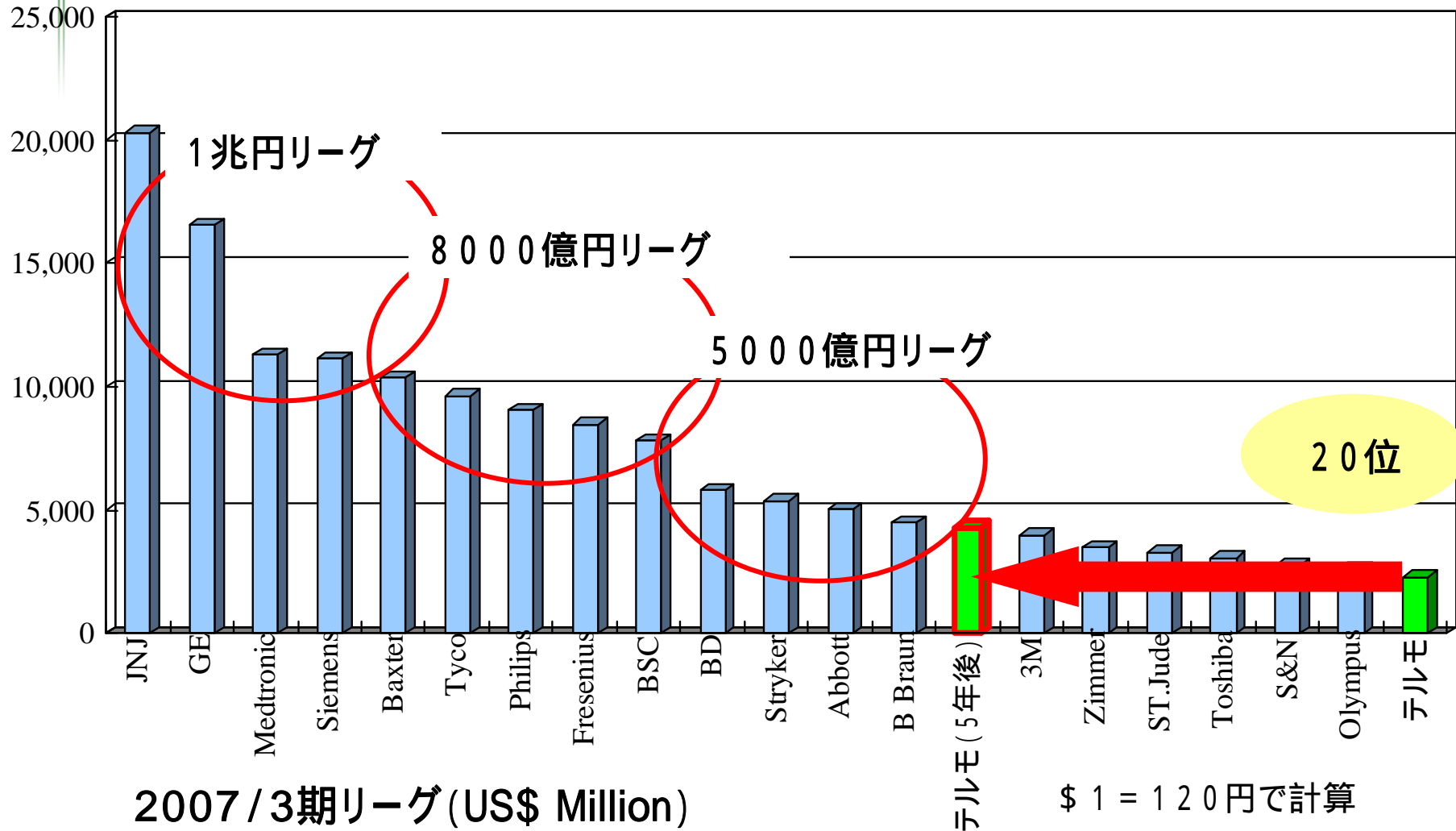
Global-Innovation-Speed

非連続への挑戦

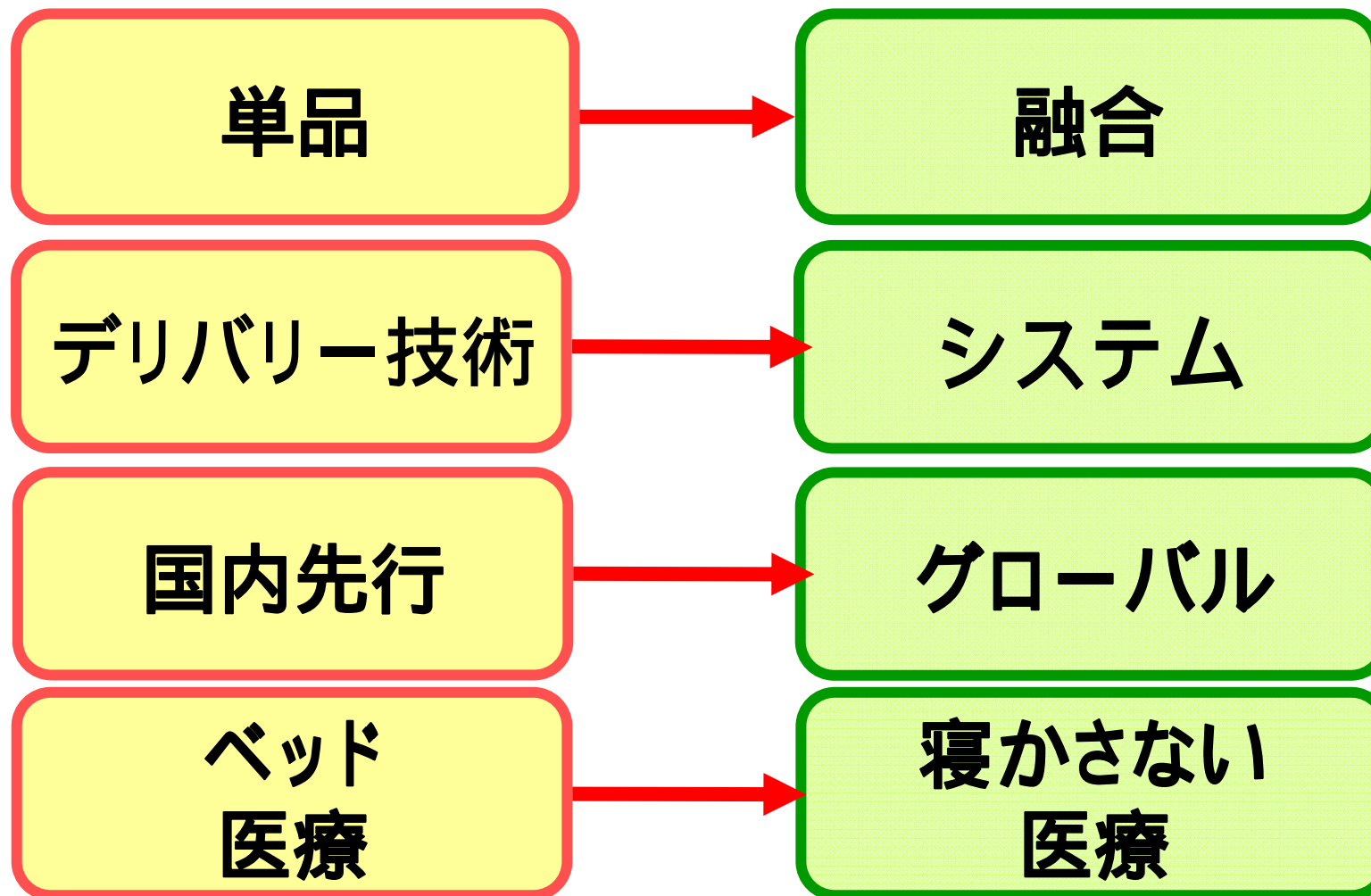
成長スピードの飛躍的な加速



2013/3期には5000億円リーグへ



「静」から「動」へ



Phoenix 2010



< 3つの戦略 >

イノベーションへの挑戦

カンパニー制の進化
(事業ポートフォリオの強化)

世界に
存在感のある
企業へ

非連続への挑戦

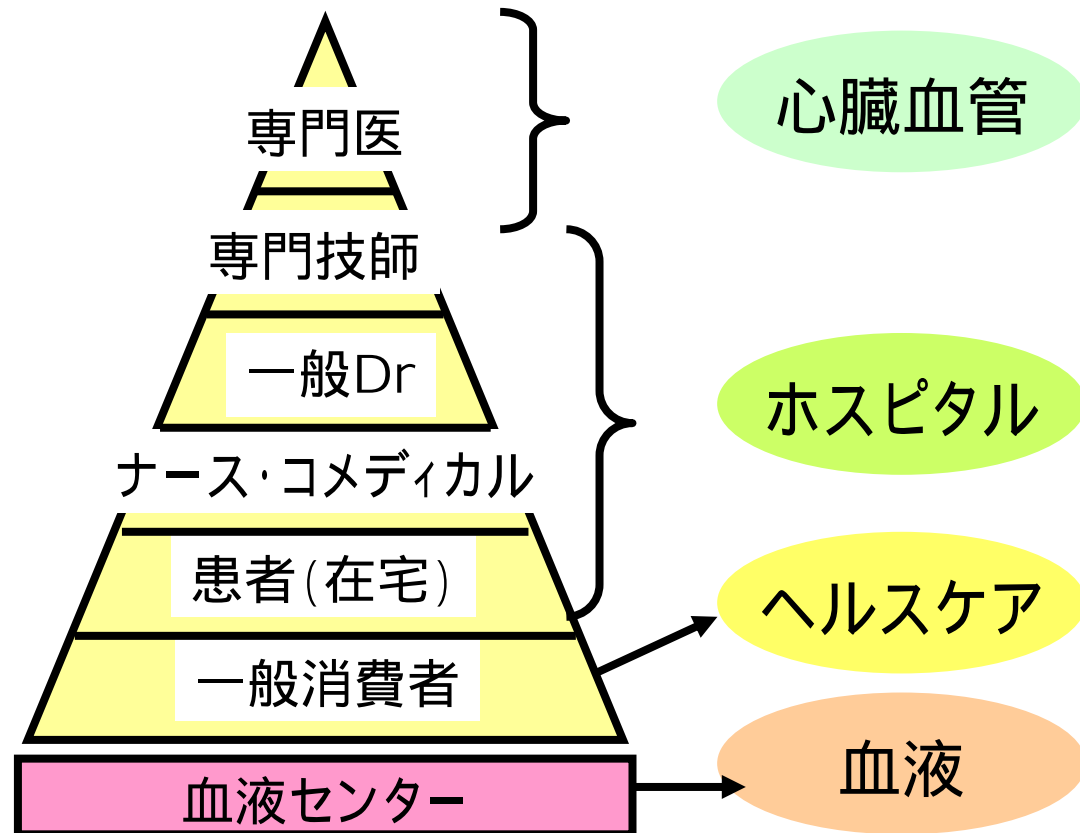
グローバル化の推進

カンパニー制の進化 (事業ポートフォリオの強化)

製品・技術軸

顧客軸

医薬品	医療器	カテーテル	C V	P D	D M
-----	-----	-------	--------	--------	--------



グローバル化の推進

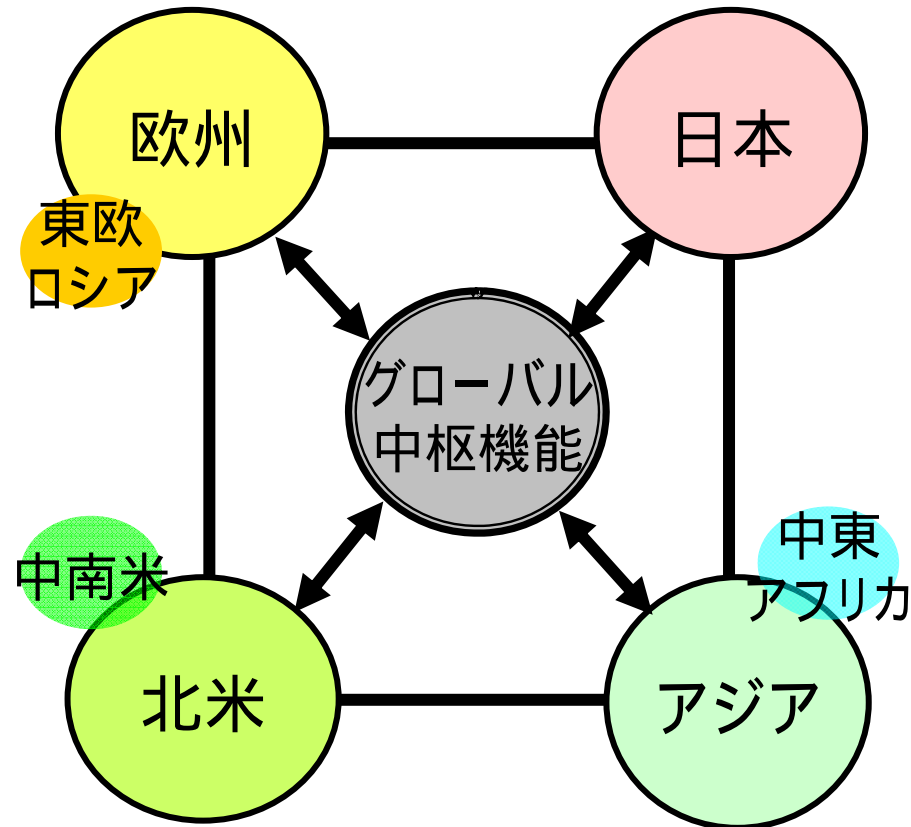
世界の医療に貢献するグローバル企業へ

現地経営力の強化

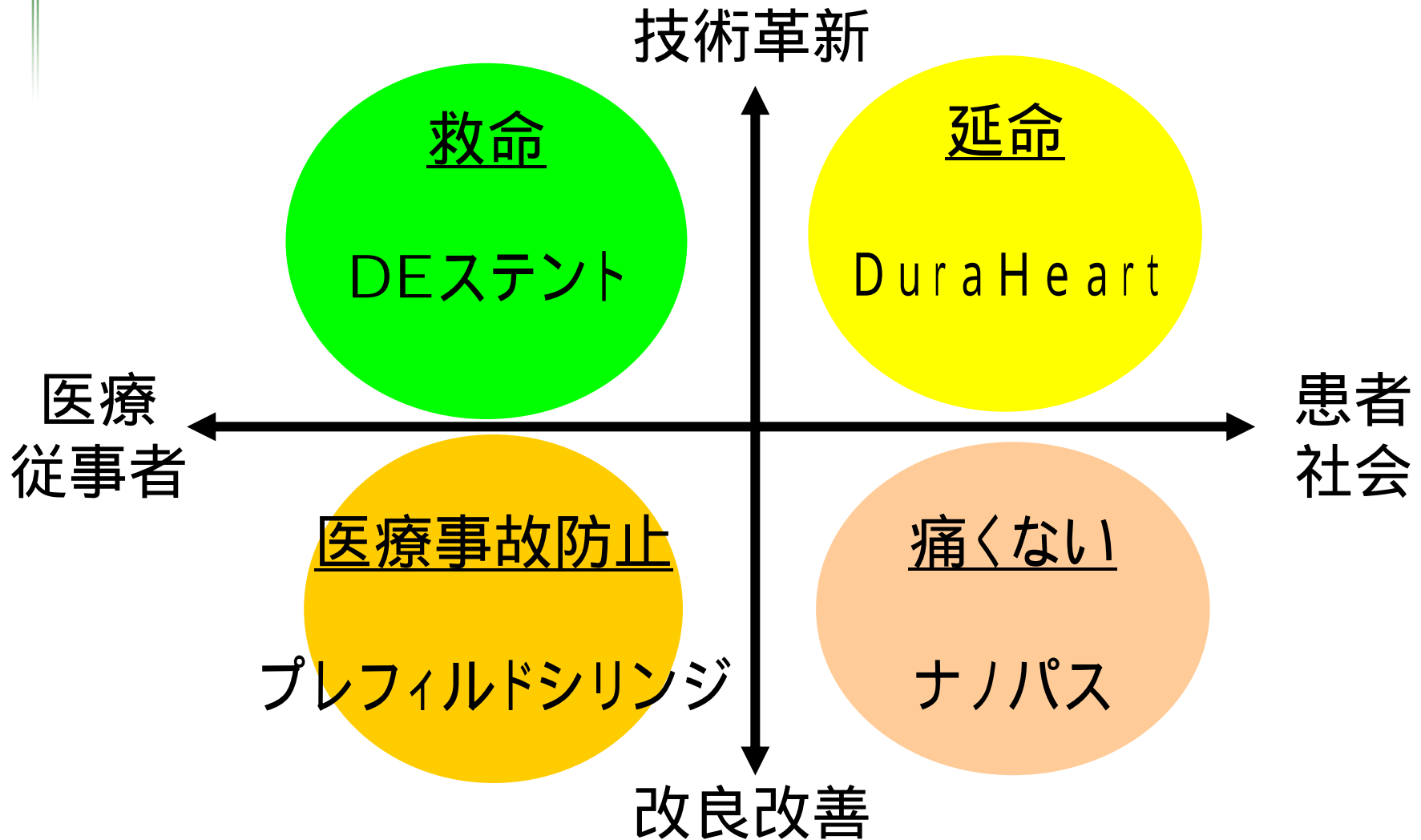
本社の中枢機能強化

新興国にも注力

ネットワーク



イノベーションへの挑戦





ホスピタル

◆顧客軸での事業シナジー強化

- 医療器と医薬品の融合(D & Dの推進)
- 病院領域と在宅領域のシナジー

◆事業開発力の強化

- ソリューション・改良改善

◆グローバル事業展開力の強化



心臓血管

- ◆ コア技術を核とした領域拡大
 - ・ カテーテル技術等
- ◆ 大型新商品のグローバル展開
- ◆ 外科手術分野への拡大
- ◆ 成長に向けた生産投資
- ◆ 新興国への本格参入

血液

◆ 全社グローバル化のドライビングフォース

- 世界160カ国に発売、新興国のドアオープナー

◆ 現市場で世界No1を目指す

- 品質とブランド力で差別化
- 新商品投入によるフルライン化

◆ さらなる成長への機会

- 細胞治療、NRC(人工赤血球)

ヘルスケア

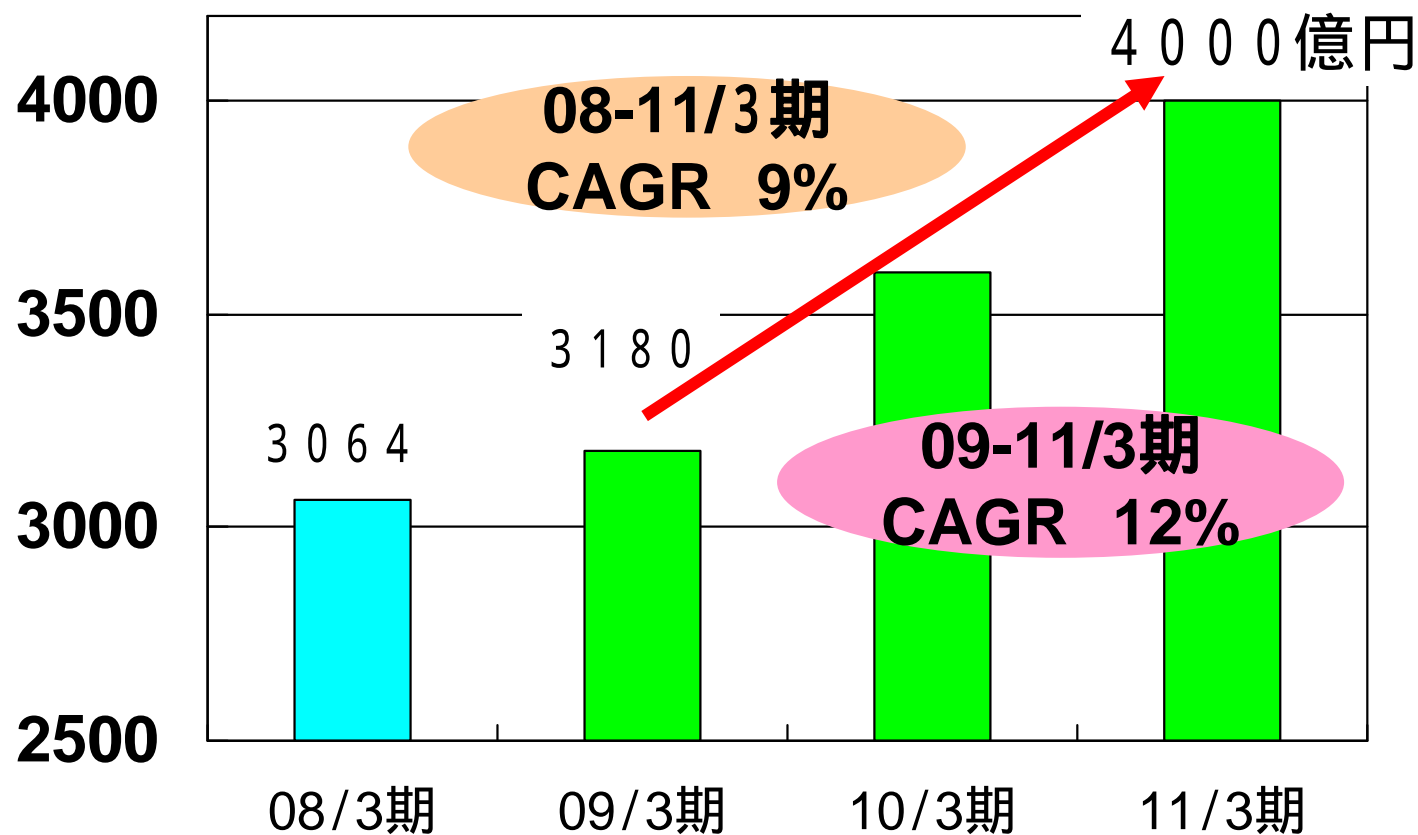
◆医療とは別のビジネスとして分割

- 顧客のスピードに合わせた機動的な事業運営
- 家庭の予防医療への本格取り組み
- 自社コア技術(生体モニタリング)の拡大

◆海外への本格取り組み

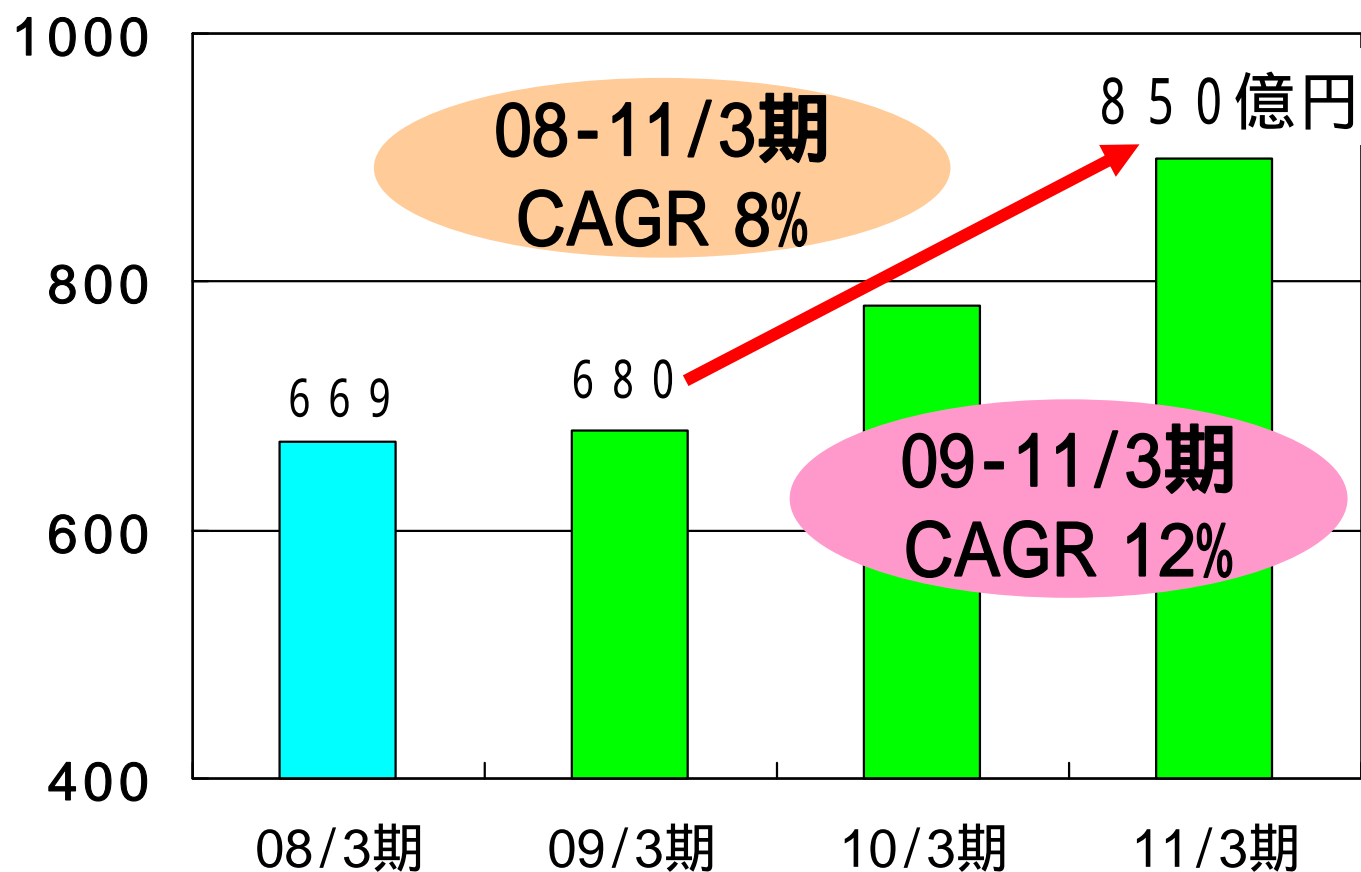
売上目標

3年で940億円の増収



営業利益目標

2桁成長トレンドの継続



09/3期 計画

次の成長へのステップ

億円

	08/3期	09/3期	伸長率
売上	3064	3180	4%
営業利益	669	680	2%
研究開発費	158	180	14%
設備投資	157	240	53%



〈おことわり〉

本資料に記載されている業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため様々な要因の変化により、実際の業績が、記載されている予想・見通しとは異なる場合がありうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、為替レート、競争状況などがあります。